

令和7年2月の大雪除雪に関する検証と今後の方向性について（概要版）

1 はじめに

帯広市では、冬期間の市民生活や地域経済活動を行うことができるよう、円滑な道路交通の確保を目的に、平成22年11月に帯広市総合除雪基本計画（平成22年度～令和元年度）を策定し、除雪事業に取り組んできました。

令和2年8月には、気候状況の変化や除雪に対する市民要望の多様化などを踏まえ、第二次計画（令和2年度～令和11年度）を策定し、除雪に対する市民の理解や協働に取り組みながら除雪を進めています。

本年2月に発生した大雪は、予想を超えた観測史上の記録的な降雪であったため、帯広市雪害対策本部を設置し、国等と連携しながら除排雪に取り組みました。

今後も、今回と同様な大雪の可能性があることから、今回の大雪に対する除排雪の取組みを検証し、その結果を今後の大雪が降った際の対応に活かしていくものです。

2 気象の概況

日本海側の低気圧に向かって南東からの風が吹き、日高山脈の上空で雲が発達し、低気圧の停滞や海水温の上昇などの複数の要因が重なり、十勝地方に記録的な大雪をもたらしました。

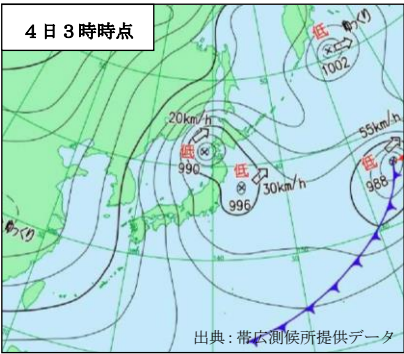
①警報・注意報状況

- 2月3日15時26分 大雪注意報発令
- 2月3日20時22分 大雪警報発令（予想降雪量最大60cm）
- 2月4日13時19分 大雪注意報に切替

②降雪状況

- 2月3日17時 降雪が始まる
- 2月4日 0時 降雪量 20cm 累計降雪量 20cm
- 2月4日 3時 降雪量 59cm 累計降雪量 79cm
- 2月4日 9時 降雪量 45cm 累計降雪量 124cm

※24時間降雪量124cmは帯広市における観測史上最多、12時間降雪量120cmは国内における観測史上最多



3 大雪による影響

3-1 道路網への影響	3-2 公共交通機関への影響
○市道 ・スタックする車が多数発生 ・幹線道路等で渋滞が発生 ・生活道路で対面交通に支障 ・歩行者が車道を通行	○路線バス ・2月4日の始発から6日まで全線運休 ・7日から地方部の路線バスが一部運行を開始 ・12日から市内の路線バスが順次運行を開始 ・21日に全線で通常運行を再開 ○空港 ・空港の定期便が欠航 ・空港連絡バスの運休
3-3 公共施設への影響	3-4 その他の影響
○小学校・中学校・高等学校 ・市内の小中学校、高校が休校 ・学校給食の配送を休止 ○公共施設の休館	・家庭ごみの収集を休止 ・収集再開後の収集時間の遅延

4 大雪の対応

4-1 庁内体制

○帯広市雪害対策本部の設置

今回の大雪では、道路の通行止め等はなかったことに加え、電気やガス、通信設備などのライフラインには被害がなく、直ちに人的被害等につながるような状況ではなかったことから、帯広市地域防災計画に基づき、大雪による交通障害の解消を目的として、2月4日に雪害対策本部を設置しました。

○帯広市雪害対策本部会議の開催

雪害対策本部会議は、2月4日の9時に第1回を開催し、庁内関係各課の情報や課題の共有のほか、国や北海道からリエゾン（情報連絡員）が派遣され、情報の収集・共有や課題解決に向けた支援等について協議してきたものであり、市内を運行する路線バスが全線通常運行した21日をもって本部を解散しました。

○バス路線確保のための連絡会議の開催

路線バスの早期運行再開に向け、国や北海道、帯広市の道路管理者に加え、バス会社やハイヤー協会による連絡会議を開催し、通学・通院を優先した路線から再開を目指すこととしたほか、渋滞緩和するためのバス停などバス路線確保のための拡幅・排雪を行う優先路線を決定しました。連絡会議は2月7日から19日までに計4回開催しました。

4-2 除排雪の実施状況

○新雪除雪

- ・2月4日 0時 新雪除雪1回目を開始
- ・2月4日20時 新雪除雪2回目を開始
- ・2月6日 7時 残っていた幹線道路の新雪除雪を終了

○排雪除雪

- ・2月 6日 学校給食搬入経路とバス路線を優先して拡幅・排雪作業を開始（2度の追加補正予算で対応）
- ・3月13日 拡幅・排雪作業を終了

○雪捨て場等の状況

- ・市指定の雪捨て場（3箇所）で整地機械を増車し、24時間の受入れを実施
- ・緊急対策として個人による公園敷地内への排雪を許可

4-3 国や北海道による支援

○国等からの支援

- ・2月4日 国と北海道がリエゾン派遣～21日
- ・2月10日 国と連携したスクラム除雪を実施
- ・2月15日 国の協力業者による支援除雪を実施



国とのスクラム除雪

5 大雪の検証と今後の方向性

今回の大雪では、2月4日0時から市内全域で一斉に除雪作業を開始し、幹線道路は2日間で2巡の新雪除雪を行い、車の通行確保に努めましたが、通行幅を十分に確保することができず、路線バス等大型車両の運行に支障があったことから、引き続き排雪作業に切り替え対応しました。

今回のような異常降雪により交通障害が発生するような時には、通常の新雪除雪の所要時間では対応することができないため、除雪機械や人員などの限られた資源を有効に配分しながら、市民の理解や協力のもと、効率的・効果的な作業を行っていくことが重要でありました。

このような視点から、今回の大雪除雪の対応を検証し、それを踏まえた今後の取組みの方向性を示すものです。

5-1 除雪体制に関すること

＜今回の大雪対応＞

新雪除雪では、国道や道道へのアクセスを優先した幹線道路の除雪を行い、2日目も引き続き新雪除雪を実施しました。拡幅・排雪では、交通事業者や除雪業者と調整しながら優先路線の作業を早期に完了させるため、国や北海道の除雪業者と連携しながら作業を行いました。各除雪センターが受け持つ除雪地区ごとのバス路線延長等の違いから作業に要する時間に差が生じました。

排雪開始時は、国や団体の協力のもと、管外からの応援を受け排雪ダンプを確保しました。

大雪の検証結果
新雪除雪では、国道や道道と接続させることで、一定程度車両交通を確保できたものの、排雪では、国等の支援を受けながら排雪作業を行いました。交通障害を効率的に解消するためには、新雪除雪路線や拡幅・排雪路線の優先度の考え方を整理する必要があります。
バス路線等の排雪作業量の違いを平準化し、早期に作業を進めていくには、除雪センター間の応援体制づくりが必要になります。
排雪ダンプ等の確保は、管内だけでは不足となることもあるため、管内外への応援要請が必要となります。

5-2 情報発信に関すること

＜今回の大雪対応＞

除雪の出動や進捗状況のほか、注意喚起などの情報は、市ホームページや市公式 LINE アカウントなどを通じて発信しました。

排雪路線についても、情報提供を行いました。市民から除排雪に関する問い合わせ等が多く寄せられました。

大雪の検証結果
大雪の降雪が予想された際に、除雪作業の妨げとならないよう、市民に不要不急の外出を自粛するよう情報発信しましたが、多くの道路で車がスタックを起こし、交通渋滞が発生したことから、今後はさらなる市民の理解と協力が必要となります。
除排雪の予定や状況といった問い合わせが多かったことから、さらに除排雪路線や作業状況などの細かな情報を提供していく必要があります。

5-3 連携体制に関すること

＜今回の大雪対応＞

雪害対策本部会議や交通事業者との連絡会議では、庁内関係課や関係機関と除雪対応について協議しながら対応しました。

庁内関係課から各施設等の状況や除排雪に関する情報共有を行ったほか、リエゾンが派遣されるなど、国や北海道とも連携して大雪に対応しました。

大雪の検証結果
雪害対策本部や交通事業者との連絡会議などでは、会議等を開催し大雪対応を行いました。各除雪センターなどとの主な連絡手段が電話等であったことから情報が伝わりづらかったほか、庁内関係課からの除雪要請箇所の確認に時間を要したため、庁内関係課及び関係機関との連携の強化や情報伝達の円滑化を図っていく必要があります。

今後の大雪対応の方向性
・ 効率よく計画的に除排雪作業を行うため、優先度の考え方を整理します。
・ 交通障害を早期に解消するため、各除雪センター間の排雪作業の応援体制を検討します。
・ 国や北海道との連絡調整をはじめ、除排雪支援や排雪ダンプ等の確保などについて連携を強化します。
・ 除雪情報や注意喚起など市民の理解と協力を得るための情報発信について検討します。
・ 円滑な道路の除排雪作業を行うため、国や北海道をはじめ、交通事業者や庁内関係課と連携を強化します。



今後の大雪への対応を「帯広市総合除雪基本計画」に加えるなど大雪対策に取り組む

今後のスケジュール

令和7年7月24日	建設委員会へ「大雪除雪に関する検証と今後の対応について」の報告
令和7年8月21日	建設委員会へ総合除雪基本計画（原案）の報告
令和7年9～10月	総合除雪基本計画（原案）パブリックコメントの実施
令和7年11月	建設委員会へ総合除雪基本計画（案）の報告
令和7年11月中旬	今シーズンの除雪体制開始



生活道路の除雪状況



生活道路の積雪状況